

今週の為替相場見通し(2020年3月9日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		105.00 ~ 108.57	105.34	101.00 ~ 106.00
ユーロ	(ドル)		1.1010 ~ 1.1355	1.1280	1.1100 ~ 1.1500
(1ユーロ=)	(円)		118.10 ~ 120.93	118.96	117.00 ~ 120.00
英ポンド	(ドル)		1.2740 ~ 1.3053	1.3047	1.2900 ~ 1.3100
(1英ポンド=)	(円)	*	136.44 ~ 139.19	137.54	136.00 ~ 138.50
豪ドル	(ドル)		0.6460 ~ 0.6657	0.6640	0.6450 ~ 0.6700
(1豪ドル=)	(円)	*	69.33 ~ 71.52	69.88	67.70 ~ 70.20

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 木村 優太

(1)今週の予想レンジ: 101.00 ~ 106.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

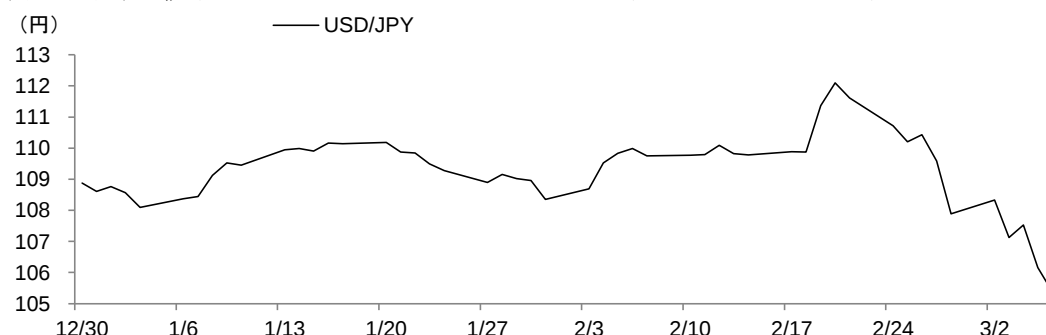
先週のドル/円は、新型肺炎の世界的感染拡大を受けて大きく下落した。週初2日は107.69円でスタート。週末発表された2月中国製造業、サービス業PMIが過去最低を記録したことで一時107.00円まで下落するも、日銀のETF買入れ発表を好感して一時週最高値の108.57円まで反発。その後米金利の低下につられて107.50円レベルまで下落するも、G7財務相電話会議に中銀メンバーが参加すると報道されると金融緩和への期待から108.30円レベルまで反発した。3日はG7電話会議で協調利下げや財政出動はしない方向と報道され、日経平均株価の下落につられてドル/円も107.70円レベルまで下落。海外時間にFRBが50bpsの緊急利下げを発表されたことを受けて一時的に上昇するも、パウエルFRB議長の会見で新型肺炎の影響の不透明感が意識されたことで米金利が1.0%を割り込むと再び下落に転じ、106.90円レベルまで下げ幅を拡大。4日はスーパーチューズデーにおける中道派のバイデン候補の躍進がドル/円のサポート材料となりドル買い優勢だったものの、新型肺炎への警戒感や米金利の低下が上値を抑え107.50円レベルまでの小幅な上昇に留まった。5日は新型肺炎への警戒感の高まりから米株は3指数とも大幅下落となり、0.9%を割り込んだ米金利に連動してドル/円は106.00円近辺まで下落。6日も下げ止まらない米金利と共にドル/円も週最安値の105.00円まで続落。米2月雇用統計が市場予想を上回る内容であったことでドルの買い戻しが進んだものの、上値重く105.34円でクローズ。

今週のドル/円は上値の重い推移を予想する。欧米でのコロナウィルスの感染拡大による景気減速の予防措置としてFRBが行った50bpsの大幅利下げも株式相場の安定には寄与せず、逆に市場に動揺を与える結果となり、米株は3指数とも大きく下落した。先週発表された米2月ISM製造業景況指数や米2月雇用統計は予想を上回ったにも関わらず、中国2月PMIのような指標の悪化、景気減速の兆しが今後出てくることを織り込み、米金利市場は年内の追加利下げを織り込んだ水準である0.7%付近まで下落している。足許ではさらに欧米でのコロナウィルスの感染拡大が報道されており、目先の不透明感が払しょくされるとは考えにくく、ドル/円が反発するシナリオは思い浮かべにくい。また、今週12日に予定されているECB理事会で利下げが発表された場合、ユーロ/円の売りの影響でドル/円が一段と下落することも想定される。以上のことを勘案し、今週のドル/円はリスクオフによる下落傾向が継続し、下値を探る展開となることを予想する。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/2~3/6)の値動き:

安値 105.00 円 高値 108.57 円 終値 105.34 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 岡本 明生

(1)今週の予想レンジ: 1.1100 ~ 1.1500 117.00 ~ 120.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場はドル安の展開。今週のユーロ/ドル相場は週後半に1.12を上抜ける推移。週初2日に1.11台前半でオープンしたユーロ/ドルは米金利が過去最低水準で推移するなか、1.11台後半まで上昇した後、米金利が徐々に戻る動きに1.11台前半まで反落した。3日は、FRBの緊急利下げの発表を受け、一時1.12台前半まで急伸したが、買い一巡後、米金利が1.0%を上回る動きに1.11台後半まで反落した。4日は、ユーロ/円の下落に連れ安となり、一時1.11を下抜けた後、徐々に値を戻し1.11台前半で小幅に推移した。5日は、株式市場の軟調な推移を受けて下落したが、米金利の低下からドル売りが加速し、1.12台に突入すると、一時1.12台半ばまで上昇した。6日は1.12台前半での推移が続いていたが、米2月雇用統計の発表を前にドル売り優勢で1.13台を示現。一時週高値1.1355まで上昇、対円では週安値118.71円まで下落した。その後発表された同指標は良好な結果となるも特段反応なく、終盤にかけドルがやや買い戻されて対ドルで1.1280レベル、対円で118.96円レベルで越週した。

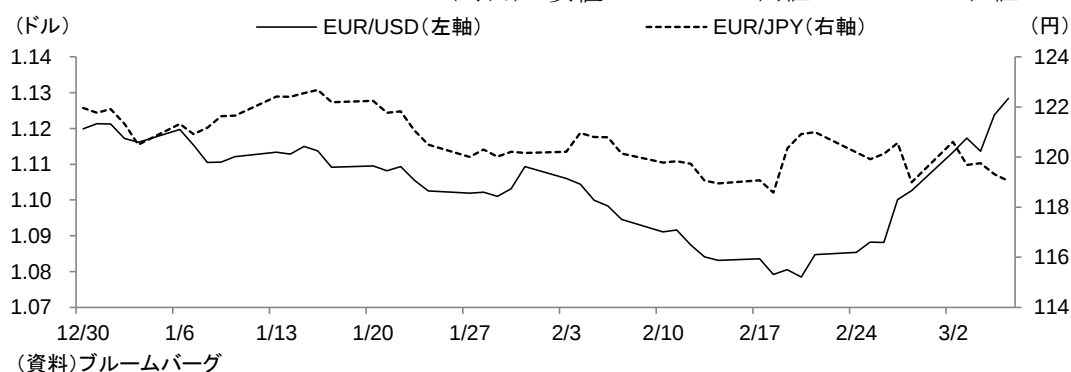
今週のユーロは、上昇ペースが緩やかとなろう。新型コロナウイルスの感染者拡大が止まらず、主要中銀の相次ぐ利下げやG7財務相電話会談などの当局者発言があったものの、パニック的な市場の混乱は続いている。特に、米国では一部の州で非常事態宣言が出される状況となり、米10年債利回りは史上最低となる0.7%を一時割り込み、また3月17~18日(火~水)開催予定のFOMCで更なる利下げを市場は期待している状況。一方、ECBは先週の当局者発言を勘案する限り追加緩和には否定的な様子で、今週12日(木)のECB理事会で金融政策の現状維持となれば相対的に金利が高いユーロには一段と買いが入る可能性が高いと予想される。しかし、ファンダメンタルズが脆弱であること、またイタリアをはじめ欧州でも新型コロナウイルスの懸念は高い状況を勘案すれば、徐々に買いは緩やかになろう。昨年6月以来となる1.14台を示現した後、節目1.15を抜ける程の強さはないと考えているが、引き続き新型コロナウイルス関連のヘッドラインに注視せざるをえないだろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/2~3/6)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1010 高値 1.1355 終値 1.1280

(対円) 安値 118.10 高値 120.93 終値 118.96



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2900 ~ 1.3100 136.00 ~ 138.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、週初下押しから、週中に掛けて方向感を欠いた横這いへと推移、週後半に向けては対ドルで上昇、対円で下押しと値動きが分かれた。英国国内の報道も、新型コロナウイルス関連一色で、2日から始まった英とEUの通商協議などからの報はほとんど聞こえてこなかった。交渉の第1段階終了後(5日)、EU側のバルニエ首席交渉官から「深刻な」隔たりがあるといった発言が聞かれたが、ポンドが材料視した様子は見受けられなかった。金融市場全般の注目を集めたのは、主要国による上述ウイルス対応。3日、G7財務相・中銀総裁は電話会議を実施し、協調体制を確認した。一方、2日には日銀がETFの大規模購入、3日には米連銀が50bpの緊急利下げに踏み切った。株式市場や商品市場、通貨市場でも新興市場通貨などはこうした対応を好意的に受け止めて反発したが、主要通貨全般の反応は限定的だった。4日、主要通貨に対してポンドが全面高に振れたのは、英中銀のベリリー(次期)総裁が、「(英財務相と)最も効果的な協調を取るために意見交換した」と述べたのがきっかけ。前日の米連銀に続き、市場の一部には「今日にも」英中銀も利下げに動くとの思惑が広がっていたが、同発言により、「少なくとも11日の予算発表に前後するまで具体的な行動(=利下げ)は見送られるのではないか」との見方が強まった。米連銀利下げ(期待)などを受けて一旦は復調を見せた株式市場全般が、5日以降、再び軟調に転じると、通貨市場では円高が鮮明になった。6日発表された米2月雇用統計は、非農業部門雇用者数の大幅増など、市場予想を上回る内容と言えたが、上述ウイルスが米経済に深刻な影響を及ぼす可能性が警戒される以前にまとめられた統計として、ほとんど材料視されなかった。

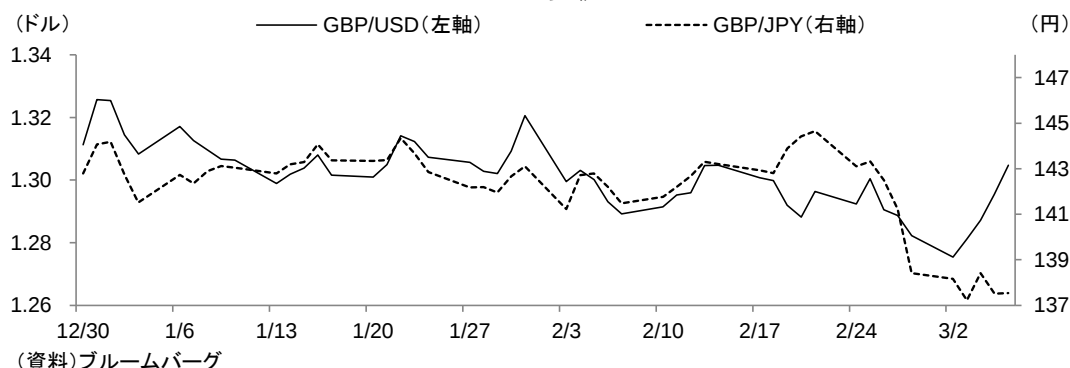
今週の英ポンド相場は、現行水準における横這いを予想。市場の注目は11日(水)の英予算発表に集まろうし、12日(木)には英中銀利下げ観測が再び強まる可能性も考えられよう。横這いを中心に見込むのは、まず、こうしたイベントを前に様子見気分が強まることを予想するから。加えて、そうして待ったイベントの結果が、ポンドに明確な方向感を加える可能性も低いものと見込む。財政出動や金融緩和は、病気の蔓延による経済的打撃をある程度は緩和できるかもしれないが、病気の広がりや、それによる死者の抑制には(ワクチン開発費などを除いて)限定的な影響しか及ぼせないであろう。視点を変えれば、病気そのものの帰趨がはっきりするのは、早くも北半球が春を迎えて以降になるはず(暖かくなれば自然に収束する可能性もあるし、暖かくなっても収束しなければその脅威は一気に高まることになる)。趨勢も見極めないうちに発動した対症療法が、十分な成果を上げないまま向こう数週間うちに忘れられてしまい、株式市場などから追加緩和が要望される催促相場が延々と続く可能性も考えられよう。実際に、米連銀の緊急利下げも、トランプ米大統領が署名した78億ドル規模の緊急歳出法(6日)も、市場で観測されていた間、あるいは実現直後こそ株価押し上げに寄与したものの、その後その効果は急速に薄れてしまった感が強い。与党保守党は昨年12月の英総選挙で中期的な財政均衡を公約にしておき、そもそも大胆な歳出拡大余地は限られているはずだが、加えて、既述の通り、財政政策や金融政策でできることが限られているとなれば、それがポンドの方向感に明確な影響を及ぼす可能性も見込み難いのではないかと。新型コロナウイルスとその影響に対する関心が圧倒的に支配的な状況下、11日(水)に予定される英1月鉱工業・製造業生産、同貿易収支などの発表が材料視される可能性も低いものと見る。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/2~3/6)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2740 高値 1.3053 終値 1.3047

(対円) 安値 136.44 高値 139.19 終値 137.54



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.6450 ~ 0.6700 67.70 ~ 70.20 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.64台から0.66台まで上昇。週末に発表された中国PMIが製造業・非製造業ともに予想を大幅に上回る結果となったことを受け、週初2日、豪ドルは0.6490近辺でギャップオープン後、一時0.6460まで下落。中国当局による財政支出拡大への期待から中国株式相場が回復する中、発表された豪経済指標が市場予想の範囲内の結果となり、豪ドルは上昇に転じた。その後は、中銀による政策協調への期待や米金融緩和観測の強まりを背景に買い戻しの動きが優勢となり、一時0.6560台後半まで上昇。3日、RBA会合で政策金利25bp引き下げが報じられると買いで反応し0.6565近辺まで買い進まれた。G7共同声明は具体策には言及せず、株価は下落。その後、NY時間にFOMCが臨時会合にて50bpの緊急利下げを決定。豪ドルは0.6646近辺まで買い進まれたが長くは続かず、0.6590台まで下落して引けた。4日、豪10~12月期GDPが予想を上回る結果だったことを好感し小幅上昇。欧米時間に入り、新型コロナウイルスの感染拡大に対応する緊急支出法案で米議会が合意したことが好感され、株価が上昇する中、豪ドルも底堅い値動きが継続。5日、株価の急落を背景に豪ドルも0.66台を割り一時0.6580台まで下落。質への逃避の動きから米10年国債金利が0.90%台を割り込む中、米ドルが他通貨比売り進まれ、豪ドルは引けにかけて0.6610台まで値を戻した。6日、米国債利回りの急低下を背景に0.6640近辺まで買い進まれた。

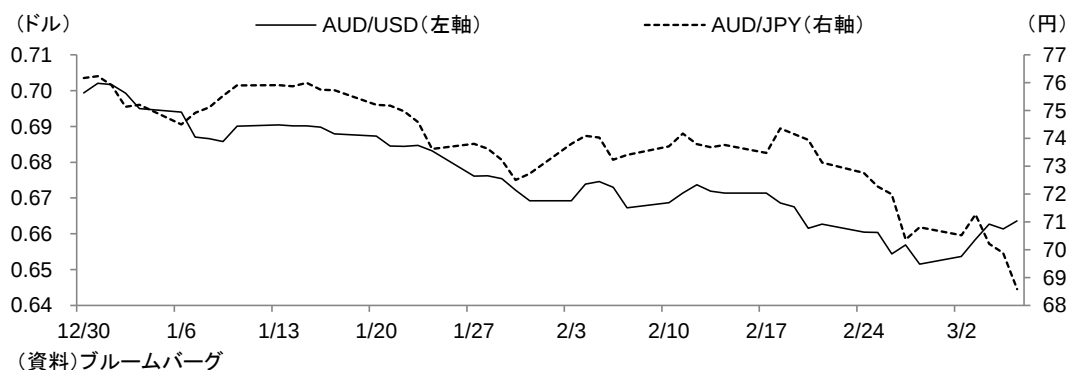
今週の豪ドルは引き続き上値の重い展開を予想する。コロナウイルス感染者数が増加する中、発表される経済指標は良好な結果でも、殆ど無視されている状況。米国内で感染拡大が進む中、リスク回避の動きが継続するものと思われる。先週はRBA、FOMCどちらも利下げを決定したが、コロナ騒動が収束しない中、更なる追加利下げ圧力が強まっており、金利先物は本稿執筆現在(9日9時時点)、4月RBAで1回の利下げ、3月FOMCで2回の利下げを織り込んでいる。豪ドルに関しては、リスクオフで売られやすい一方、米金利低下は買いサポートとなり、相場の方向性をつかむのが難しい局面となっている。引き続き市場ムードの変化に注意を払いたい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/2~3/6)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6460 高値 0.6657 終値 0.6640

(対円) 安値 69.33 高値 71.52 終値 69.88



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。